

白井高齢者生活支援会議

第1層協議体

第1層協議体（白井高齢者生活支援会議）とは？高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、支え合う地域づくりについて、白井市全域を対象として話し合いをしています。各圏域のふれあい会議では、地域の課題などを話し合っています。第1層ではふれあい会議での報告を受け助言、情報提供をします。白井市は、第1層協議体名をわかりやすく「白井高齢者生活支援会議」としました。



白井高齢者生活支援会議

《生活支援体制整備事業

～第1層協議体と生活支援コーディネーターの役割について》

高齢者福祉課 今井利恵

- ① 白井市の高齢者の状況や高齢化率について
→認知症高齢者に介護認定を受けていない数は含まれていない。
- ② 小学校区別高齢者率について
→自治会別高齢化率はホームページへ掲載している。
75歳以上の高齢者が増えてきている現状がある。
- ③ 介護保険制度の考え方について
→自立支援の考えが生活体制整備事業となる。
- ④ 地域包括ケアシステムについて→住み慣れた地域でいきいきと暮らすための生活支援・介護支援システムを進めている。
- ⑤ 生活体制整備事業→生活支援コーディネーターの設置・協議体の設置・就労支援（白井市で今は行っていない）
- ⑥ 生活支援コーディネーターの活動・協議体の働きについて
→協議体の皆さん、企業の皆さん、地域の皆さんと一緒に白井市や地域の事を考える場である。所属のところに持ち帰り、周知啓発をして生活支援コーディネーターが動きやすくなるようにつなぎ役などをお願いしたい。自立支援のためには、生活支援コーディネーターの役割がとても重要になってくる。白井市はどのような地域なのか、具体的なことを考える場として第一層協議体の委員の皆さまの忌憚ないご意見、ご協力をお願いしたい。

第1層協議体

H29年度会議にて（初年度）
「白井高齢者生活支援会議」にて、
白井市内全体のテーマを「ふれあう」
としました。
委員の皆さまより自己紹介と
委嘱状の交付を行いました。
任期は令和8年3月31日です。

白井高齢者生活支援会議
に参加している団体の代表

【委員メンバー】 ※敬称略
白井市自治連合会

飛田 毅

地区社会福祉協議会

成田 秀雄

白井市民生委員児童委員連絡協議会
山下 昌江

白井市高齢者クラブ連合会
岩田明子

(福)阜仁会 さつきの里
寺田 健一

NPO 法人白井市ボランティア連絡協議
入江 富士子

白井市商工会
駒村 武夫

白井市介護支援専門員協議会
仲山 君子

ASA NT白井
能登 雅彦



《生活支援体制整備事業における民間企業との連携について》

高齢者福祉課 安岡紹子

令和4年度2月の会議にて委員の皆様より白井市における生活支援体制整備事業での企業連携の考え方と今後の方向性についてご意見をいただき、その回答や説明を行う。

- ①地域ぐるみネットワーク(ふれあい会議)での経緯や取り組み例について
→平成24年より市内全域で実施し、小学校区ごとに分かれて話し合っていた。現在に至る取り組み例の紹介。見守りネットは民間企業や事業者のゆるやかな見守りをおこなう事業。
- ②包括連携協定企業の紹介
- ③事業における今後の連携について
→いろいろな選択肢があるというのは大切な事である。コロナ前は企業の連携をすすめられていた。民間企業と高齢者の困り事を共有することが必要。これからますます、企業との連携が必要となり、これから協議の場を設けていきたいと考える。

医療法人社団東光会 北総白井病院
有賀 崇記

一般社団法人 SET
ににここケアステーション
大網 知子

《市への質問》

Q 企業との協議の場を設けていくとあるが、具体的にどのようなことを考えていけばいいのか？

A.市内の民間企業がどのようなことをしているのか知らないこともあるため、今後検討していく。

Q.見守りネットとあるが、緩やかな見守りとあるが市民の方の認知度やファーストアクションとして市への相談はどのくらいあるのか。

A.年2回くらい。住民への認知度はまだ低い。企業へは情報発信はしている。医療面からも協力できるところはやっていきたい。

Q.近所の方とうまく関係性が結べていない方がいて、足腰が丈夫なうちから関わりを持つことが大切だと考える。認知症の方が家などわからなくなった場合は、どこへ連絡すべきなのか。

A.警察の方が対応をしていただく。SOS ネットワークを通して防災無線が流れる。



《第二層コーディネーターより活動・課題について》

社会福祉協議会 鈴木 茉奈

(1) 活動の報告や、課題について説明。

- ・令和4年度は、生活支援（自宅の中での困り事）の相談が多かったが、令和5年度は、集いの場についての相談の件数が増えている。
- ・集いの場についての解決率が低い。
- ・今後の取り組みとしては、「・・・しかない」ではなく、選択肢を増やすことが幸せにつながる。
- ・安定した活動を継続するために、担い手の確保が必要となる。
- ・ちよい困団体の立ち上げ支援を進めている。(七次台・第二小学校区)
- ・ガーデンサロンの立ち上げを進めている。(南山地区)
- ・第一層協議体委員の皆様は鳥の目となっていただき、広い視野でアドバイスをいただきたい。

(2) ワークショップ

- ・集いの場の課題解決に向けてどのようなアイデアがあるか？(所属する団体の立場より考えていただく)
- ・白井にある地域資源(人・物・場所・企業・文化など)を活用した既存の考えにとらわれないアイデアを教えてください。

展開（皆さまからのご意見）

- ・大山口地区では、体操を行っている。しっかりとした体操ではなく、面白い内容を取り入れて、来てくれた人が必ず笑ってもらえるように工夫している。体操を行うことにより、演奏をしたい方も来てくれるようになった。週に1回にとられるのではなく、自分が行きたいときに行ける場があることが理想だが、現実には難しい。

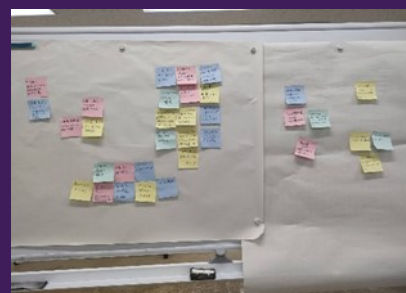
Q.認知症の方で、身内が近くに
いなくて警察へ連れて行ったことが
ある。そのような場合高齢者市では
どのように対応した方がいいと
かんがえるか。

高齢者クラブでは、黄色い布を配って
いる。布へ連絡先を書けるように
なっている。シールのようなものに
連絡先を書いて背中に張るのもいい。
市でも連絡先が記入できるもの配布
を検討してもいいのではないか。

A.市では、靴のかかと部分への記載を
すすめている。対応に困った場合は、
市へ連絡していただいてもいい。

《委員の皆様のアイデア》

2つの班に分かれて、話し合う。
地域包括支援センターの方に
参加していただき、まとめていただ
いた。





- ・池の上お楽しみ処、池の上2丁目の参加者が少ない。
堀込第4集会所も人が集まらない。場所があるといい。
- ・いろんな周囲のものが、あちこちで行えたらいいのではないか。
- ・さつきの里では、コロナ禍以前は、サロンを行っていた。
今後も場所の提供に協力してもよい。(通所サービスが休みの日などが中心)
- ・移動販売車カスミがくる日は、誘いだして早めに行っておしゃべりしたり、アイスを買ってみんなで食べたりする。場所にとらわれない集いの場もいいのでは。
- ・集いの場へ行けない方は、膝や腰に痛みがあり、バス停までも歩くことが困難だったり、カスミの音は聞こえていても、そこまで行ったときには、時間が過ぎてしまう。
- ・カスミ、ヤオパークが回ってきても、そこまでもいけない。
本来なら、近所の方が誘い出していただきたいが、関係作りができていないこともある。
- ・草取りの作業の時に作業に参加してない方も一緒にお茶飲みをしたりしている。
- ・まごころサポートなどの情報提を供行っていく。
- ・日中使っていない場所(例えば居酒屋など)との関り。
- ・南山第一サロンが再開した。参加者が固定されてしまいがちでそれが課題と言える。
- ・集いの場へ行くための送迎サービスが今後の課題。

次回予定：第二層協議体より通いの場についての報告など
日程が決まり次第お知らせいたします。



貴重なご意見を積極的に
お寄せいただきまして、
ありがとうございました。

今回いただいた、ご意見
の中にはすぐに結びつきそ
うなものもありました。
生活支援コーディネーター
の活動へとつながり、地域
の方の選択肢が増えてい
くように今後も情報提供な
どもご協力をお願いいたし
ます。



本日は、大変貴重なご意見をお寄せいただきまして
ありがとうございました。